

## 第 15 回台湾通訳翻訳教育シンポジウム大会報告

丁 紀祥

(大阪大学大学院 人間科学研究科博士後期課程)

1997年7月5日「中華民国通訳翻訳学学会」(中華民國翻譯學學會)<sup>1)</sup>は有志者達の努力によって設立され、同年、第一回のシンポジウム「第1回台湾通訳翻訳教育シンポジウム大会」がカトリック教輔大学において開催された。台湾における通訳翻訳研究史に新たな幕を開けたが開かれた。その後、このシンポジウムは毎年、通訳翻訳研究科を擁する三つの大学(輔仁大学・師範大学・長栄大学)で順に開催されている。2010年は15回目を迎え、長栄大学の主催となった。これまで各校は5回のシンポジウムを主催しており、これから6回目のサイクルを迎える。今後、台湾における通訳翻訳研究はさらに新たな研究成果の創造に向け、新たな段階へと歩み始めることが期待・予想される。

台湾の通訳翻訳界において一年一度の大イベントである「台湾通訳翻訳教育シンポジウム」は今年2010年は15回目を迎え、12月17日に台湾・台南・長栄大学にて開催された。台湾の通訳翻訳学科・研究科の学科長や研究科長がすべて集まっただけでなく、各大学から通訳翻訳教育者や研究者、海外からの参加者が集まり、150名が出席する盛大な学術大会となった。

### 教育テーマが中心に

通訳翻訳教育シンポジウムという名称が「教育」という語を含むように、当シンポジウムは「教育」に重点をおいている。応用外国語教育の一環として、外国語専攻の学生達がすでに身につけた外国語能力をさらに高度な運用能力として駆使し、コミュニケーションを達成することが、現在台湾における外国語教育の主な目的である。この高度運用能力には「訳す」という能力も含まれる。つまり、話す・聞く・読む・書くという4つの技能に「訳す」という技能を加え、5つの技能を習得するという方針で外国語教育が実施されている。加えて通訳訓練法の実施により外国語能力を高めるという教育法も盛んに行われている。ゆえに、台湾では「通訳翻訳」と「教育」とは車の両輪のような存在である。よって、本シンポジウムは通訳翻訳の研究成果の提示だけでなく、教育の成果をも提示する機会となっている。そのため、本シンポジウムでは、教育についての研究発表が多く見られる。表1は、今年の研究発表23件をテーマ別に分類したものである。

---

Ting Chi Hsiang, "A Report on the fifteenth Symposium on Teaching Interpreting and Translation in Taiwan," *Interpreting and Translation Studies*, No.11, 2011. pages 189-198. © by the Japan Association for Interpreting and Translation Studies

表 1 研究発表分野別一覧

分野	本数	分類	論文番号 <sup>2)</sup>	本数
通訳翻訳教育	11	機械翻訳	⑤	1
		映像・字幕翻訳	⑥	1
		通訳教育法	⑦	1
		翻訳教育法	⑧⑨⑰⑱⑲⑳㉑	7
		通訳ストラテジー	㉒	1
翻訳文体	11	文学翻訳	①②③⑭	4
		翻訳ストラテジー	④⑩⑫⑮⑯㉓㉔	7
通訳翻訳歴史	1		⑬	1

通訳翻訳教育に関する研究発表は 11 件で、ほぼ半分占めている。本シンポジウムの中心テーマである「教育」に合致していると言えよう。台湾における通訳翻訳研究の傾向・方向性が見られる。またその内容は、教育法のみならず、機械翻訳や映像・字幕翻訳など幅広く論議されており、台湾における通訳翻訳研究の多様性も見られる。

さらにこの 11 件の研究を見て行くと、その多くは、発表者が実施する教育の実践の考察である。中でも、インタビューやアンケートによる調査結果の報告、模擬通訳翻訳の実施やその分析が多い。また、発表者が実施した授業の実践報告を発表したものも多く見られる。通訳翻訳教育に該当する 11 件の発表のうち、上記 2 つの手法に該当する研究は 9 件である。各発表の概要については以下の表 2 に記した。

表 2 発表者が自己の実施する授業やその受講生を研究対象とする研究発表とその概要

論文番号	内容概要
⑤	発表者が講師を勤めた輔仁大学イタリア語学科 2 年生 52 名を対象にインタビュー調査やアンケート調査を実施し、機械翻訳利用手法や機械翻訳に対する学習意識・態度を把握した。
⑥	発表者が実際に担当した映像翻訳授業の実践報告
⑦	輔仁大学通訳翻訳プログラムの一科目「英中逐次通訳」の受講生 12 名を対象に実施したインタビュー調査やアンケート調査の研究成果を発表した。発表者が該当科目の授業担当であり、実施科目のコースデザイン、評価方法、実施効果などについて詳しく紹介している。
⑧	発表者が担当する授業の受講生 56 名を対象に、グループ共同翻訳学習法を実施し、その学習成果を観察・記録し、分析した。

⑨	虎尾科技大学応用外国語学科「翻訳概論」科目の担当者が受講生 149 名の間 試験の結果を集めた。これを素材として英中翻訳成績評価モデルの構築につ いて論じた。
⑪	発表者が担当する翻訳科目の受講生 80 名の試験結果を収集し、誤訳研究用 コーパスを構築した。このコーパスのデータに基づき、英中翻訳における誤 訳について分析した。
⑬	台湾北部のある大学応用英語学科の翻訳科目の受講生 26 名を実験対象と する。発表者は該当科目の担当教師で、受講生に対して模擬翻訳試験を 実施した。中英翻訳におけるコロケーションの誤用例を収集し、コーパス として構築したうえで、英語のコロケーションと中英翻訳の能力との関 連性について分析・論議した。
⑰	発表者 3 名中 2 名が教鞭をとる大学院の通訳翻訳専攻の大学院生 2 年生 9 名が研究協力者となる。CLT(コミュニカティブ・ランゲージ・ティーチ ング)利用の翻訳教育の可能性について論議した。
㉓	中港高校で講師を勤めた発表者が、自分のクラスにビデオ教材をいかに 導入したか、その実践例を報告した。

上記の表を見ると、以下の結論を導くことができる。通訳翻訳教育の研究は、通訳翻訳教師にとって着手しやすい。なぜならば、分析データの入手が容易だからである。これから通訳翻訳教育関係の論文の作成希望者はこの手法を参考にすると良いだろう。

### 通訳と翻訳の間に見られる不均衡

教育に関する 11 件の研究発表のうち、通訳教育の研究は 2 件(⑦と㉓)のみであり、他の 9 件は翻訳教育である。このような不均衡がある理由として、翻訳はすでに文字化されたものであり、素材として収集・分析が容易なことがあげられる。一方、通訳は音声によるため、それを分析素材として保存することは困難である。確かに、通訳の結果である音声ファイルを文字化・視覚化にすることは、きわめて手間・時間がかかる。翻訳の分析素材は簡単に入手できるため通訳研究より翻訳研究の方が簡単に行える。後述するが、報告者は自分で音声ファイルを聞き、テープ起こして、自分の手作業で日中通訳研究用コーパスを構築したが、それはあくまでも小型で個人用である。個人による作成はやはり限界がある。日本では名古屋大学統合音響情報研究拠点(CIAIR)<sup>3)</sup>によって 5 年間にわたり開発・構築された大規模の日英同時通訳コーパスがあるが、台湾ではまだこのような大規模の研究組織やデータベースは存在していない。通訳研究用の素材庫、コーパス、リソースデータベースなどの構築・開発がこれからの台湾の通訳研究の重要課題の一つになっていることがうかがえる。

### 英語が主流 他の言語が欠如

通訳翻訳の言語組合せを見ると、長年英語が主流である。今年のシンポジウムも例外ではなく、20 件と多い。また言語方向から見ると、一方通行の通訳翻訳研究が圧倒的に多数で、

双方向の研究は 2 件のみである。研究分野では研究の多様性が見られる一方、言語の組み合わせは多様に乏しい。今後は、その他の言語に関する通訳翻訳研究発表も期待される。

表 3 研究発表の言語組み合わせおよび言語方向一覧

言語組み合わせ	件数	言語方向	該当論文番号	件数
中+英	20	中→英	①②④⑦⑩⑬⑯⑰⑱⑳㉑	9
		英→中	③⑧⑨⑪⑫⑭⑮⑲⑳㉒㉓	10
		中↔英	⑥	1
中+伊	1	中↔伊	⑤	1
中+日	1	中→日	㉔	1
中 <sup>4)</sup>	1	中	⑬	1

### コンピューター技術の通訳翻訳研究への応用

今回の大会では、もう一つの特徴が見られる。コンピューター技術を利用して、通訳翻訳研究に応用する件数が大幅に増えている点である。この動向は今後も続くと思われる。

午前中の基調講演は米国・モントレー国際大学院通訳翻訳及び言語教育研究科教授兼中国語学科長である陳瑞清氏による基調講演で、そのテーマは「通訳翻訳教育・研究におけるコーパスの応用」である。陳瑞清氏はコーパスの種類を始め、コーパス利用の通訳翻訳学研究方法、コーパスの発展・歴史・流れなどについて説明したうえで、ウェブ上で公開されている無料のコーパスリソースを紹介し、これからの通訳翻訳研究の新たな道しるべを提示した。

午前中の基調講演に引き続き、陳瑞清氏は午後の論文発表セッションで、コーパスによる通訳能力向上に関して研究発表を行った。このセッションで、陳瑞清氏はより具体的にコーパスの操作方法と構築手順について説明し、デモンストレーションを行った。コーパスによる体系的な検索システムで英語の専門用語や表現法などを正確かつ迅速に提示することは、英語習得と通訳訓練に大きなプラスとなる。報告者は近いうちに陳瑞清氏を招聘し、台湾の学会でコーパス利用の通訳翻訳研究ワークショップを主催することを検討している。これから台湾における通訳翻訳研究が更なる新たなステージを迎えることが期待される。

陳瑞清氏の発表以外にも、コーパスを通訳翻訳研究に応用した発表が多数見られる。例えば台湾師範大学の張裕敏氏は、大学で翻訳科目の受講生の試験結果を収集し、誤訳研究用コーパスを構築した。このコーパスを利用して、台湾の英語学習者にとって誤訳しやすい部分を提示しその原因をまとめ、解決法を導き出した。台湾の英語教育者や英語学習者に有益なデータを提供した。

また、報告者もコーパス利用の研究発表を行った。個人研究用の小型日中通訳コーパスを開発し、研究を展開した。日本語と中国語の音声ファイルをデジタル化し、文字化、タグ付け、コーチングなどいくつかの加工をして、さらに検索機能を付け加えた。この検索機能を利用して、具体的な例文と訳文を提示・対照することにより、日中同時通訳手法・ストラテジーについて分析した。

コーパス以外にコンピューター技術利用の研究発表もある。台湾師範大学の廖柏森氏は、ムードル<sup>5)</sup>を利用してウェブ上で翻訳オンラインコースの開設を試みた。中英翻訳におけるコロケーションの誤用例を収集し、コーパスとして構築した。さらに T 検定 (Paired-Samples T-test) で英語のコロケーションと中英翻訳の能力との関連性について分析した。さらにコーパスの中のコロケーション誤用例にコーチングしたうえ、台湾英語学習者にとってコロケーション誤用の傾向を帰納し、誤用の原因をまとめた。このような研究は翻訳教育のみならず英語教育に対しても貢献できる。そのほかに、虎尾科技大学の温滢雅氏も、デジタル学習プラットフォームオンライン教室にあるディスカッションボードやチャットルームから、受講生の意見・フィードバックを集め、英中翻訳教育と英中翻訳評価法の研究の参考にした。

本大会で最も注目を浴びた発表者は台湾師範大学の Riccardo Moratto 氏である。Riccardo Moratto 氏は、イタリア語と中国語の機械翻訳教育実務に関して研究発表を行った。機械翻訳に対する利用方法、意識、翻訳戦略、機械翻訳利用の短所・長所など、いくつかの調査項目を設定し、機械翻訳を利用しているイタリア語学科の学生を対象に、大規模の調査を行い、統計分析を行った。さらに教師が機械翻訳の利用に対する意見・態度なども含めて、機械翻訳という新たな手法を提示した。本大会で唯一の外国人発表者で珍しい存在であり、さらに台湾で少数言語であるイタリア語を対象とする翻訳研究は少ないため、Riccardo Moratto 氏の発表は本シンポジウムで最も注目を浴びた。

21 世紀の現在では、日進月歩の科学技術の発展とともに、通訳翻訳研究においても新たな手法・道具がもたらされている。コーパス構築・コーパス利用の分析研究を始め、オンライン通訳翻訳コースの開設や翻訳ソフトウェアによる機械翻訳など、今回のシンポジウム大会では様々なハイテク技術を通訳翻訳教育研究に応用した実践例が見られる。多分野融合・学際融合などが叫ばれている現在、通訳翻訳研究分野とコンピューター通信技術、教育工学、CAI、CALL、情報工学などの分野との融合による新たな分野の開創・開拓が期待される。

### 大学院生による発表

本大会では「院生フォーラムディスカッション」というセッションも行われた。大学院生は将来通訳翻訳界の新たな力になる、将来の希望と言っても過言ではない。大学院生でも発表できるように、その活躍する舞台を提供すること、通訳翻訳研究の種を撒き、育てることもとても大事で、これからより多くの新しい力の投入を期待する理念に基づき、この「院生フォーラムディスカッション」というセッションが立ち上がった。国内外の通訳翻訳大学院の院生のみならず、外国語専攻に所属し、通訳翻訳の研究をしている院生の発表にも大歓迎の意が表されている。

今回のシンポジウムでは、院生による発表の件数は 13 件 (博士:8 件、修士:5 件) もあり、総発表件数の半分以上を占めている。さらに「院生フォーラムディスカッション」には入らずに、ほとんどの院生発表者は一般のセッションで発表した (一般セッションで発表した院生:10 名、院生フォーラムディスカッション:3 名)。大学院生であっても、現役の研究者に劣らずにすごい勢いで活躍する者も多く見られる。

大学院生の修士・博士別、単独発表・共同発表別を見ていくと、単独発表 9 件 (博士:8 件、修士:1 件)、共同発表 4 件 (修士:4 件) である。修士課程の発表者は指導教官と共同で発表する傾向が見られる。また、博士課程の発表者のほとんどは台湾師範大学通訳翻訳研究科

の院生である(台湾師範大学通訳翻訳研究科:6人、その他:2人)。さらに一人が2件の研究発表を行ったケースもある(⑥⑪)。その理由は、該当研究科の修業規定によると、博士課程の院生は単位履修と修了認定試験合格以外に、国内外の国際学術集会あるいは国際誌における発表・投稿経験1編以上が、修了条件として課せられるからである。本シンポジウムは、学术交流の場としてだけでなく、大学院生が活躍・デビューする舞台・環境を提供する役割も果たしている。

表4 大学院生による研究発表の所属・共同/単独発表別一覧

論文番号	学校・研究科	修士/博士課程別	共同/単独発表別
①	台湾師範大学 通訳翻訳研究科	博士	単独
②	輔仁大学 通訳翻訳学研究科	修士	共同
③	台湾師範大学 通訳翻訳研究科	博士	単独
⑤	台湾師範大学 通訳翻訳研究科	博士	単独
⑥	台湾師範大学 通訳翻訳研究科	博士	単独
⑨	台北市立教育大学 教育研究科	博士	単独
⑩	高雄第一科技大学 通訳翻訳研究科	修士	共同
⑪	台湾師範大学 通訳翻訳研究科	博士	単独
⑰	長栄大学 通訳翻訳研究科	修士	共同
⑲	台湾師範大学 通訳翻訳研究科	博士	単独
⑳	大葉大学 応用外国語研究科	修士	共同
㉑	長栄大学 通訳翻訳研究科	修士	単独
㉒	大阪大学 人間科学研究科	博士	単独

#### 将来の展望: 複数学校順番主催

前述のように、台湾の通訳翻訳教育シンポジウム大会は、輔仁大学・師範大学・長栄大学三校順番で15年にわたり開催されてきている。近年、グローバル時代の必要性に応じ、台湾における通訳翻訳教育もますます重視されるようになってきている。それを示すように、この10年で6つの大学が通訳翻訳学科、通訳翻訳大学院を新設した<sup>6)</sup>。また、通訳翻訳研究センターを開設した大学もある<sup>7)</sup>。台湾通訳翻訳学学会の理事長である蘇正隆氏によると、例年の三校以外に、新たに入ってきたメンバーである、彰化師範大学・高雄第一科技大学・文藻外国語学院大学などに、役割分担として、これから通訳翻訳教育シンポジウム大会の主催を担当させるよう検討するそうである。

新しい大学の加入によって台湾の通訳翻訳研究に新たな力が注入され、より多くの情報・

資源を共有するとともに、通訳翻訳研究界の輪をさらに広げることができよう。

### 次回: 6 回目の循環の始まり

次回第 16 回のシンポジウムは輔仁大学が主催することになる。前述のように本シンポジウムは三校順番開催で次回から 6 回目のサイクルに入る。また、12 月という学術イベントが集中する時期を避け、第 16 回のシンポジウム開催日は 2012 年 1 月 14 日、15 日にする予定である。二日間にわたり、より多様な研究分野、より多言語の研究発表が寄せられ、充実・かつ有益なシンポジウムが開催されることが期待される。

### 本大会に関する記録

なお、今回のシンポジウムの様子、写真、コメント、個人感想などの情報は、報告者自身開設した個人ブログに詳しく記録した。さらに現場の配布資料や、大会論文集の抽象クトなども報告者の個人ブログにアップロードし、共有・シェアしている。次のアドレスを参照されたい。

丁紀祥個人ブログ: 日本留學生活全記録

<http://www.wretch.cc/blog/oufs20071001>

報告者は 2006 年から毎年のようにこの通訳翻訳教育シンポジウム大会に出席してきた。上記の個人ブログにアクセスすると、今年度 2010 年第 15 回の大会だけではなく、第 10 回から第 14 回の様子を記録したバックナンバーを見ることがもできる。

.....  
【謝辞】本稿執筆にあたり、ご協力を頂きました大阪大学大学院人間科学研究科の岡野英之様に心より深く感謝を申し上げます。

【著者紹介】 丁紀祥 (Ting Chi Hsiang) 台湾・輔仁大学日本語学科卒業、大阪大学大学院言語社会研究科・通訳翻訳学専修コース博士前期課程修了。現在大阪大学大学院人間科学研究科博士後期課程在学中。

### 【注】

- 1) 当学会は 2000 年から「台湾通訳翻訳学学会」(台灣翻譯學學會)と名称変更し、英語学会名も「Association of Interpretation and Translation」から「Taiwan Association of Translation and Interpretation」に変更した。参考までに当学会の URL を記載しておく。  
<http://www.taiwantati.org/>
- 2) 論文番号は本報告のため報告者がつけた。それぞれの発表については添付の大会プログラムを参照のこと。
- 3) 名古屋大学同時通訳データベース (Simultaneous Interpretation Database、略称 SIDB)  
<http://sidb.el.itc.nagoya-u.ac.jp/index.php>

- 4) 通訳翻訳事業発展の歴史を振り返る研究発表で、中国語と特定の外国語の間の通訳翻訳実務的な研究発表ではない。
- 5) インターネット上で授業用の Web ページを作るためのソフトであり、Modular Object-Oriented Dynamic Learning Environmentを指す。略称は Moodle である。以下のオフィシャルウェブサイトを参照のこと。 <http://moodle.org/>
- 6) 2004 年彰化師範大学通訳翻訳研究科新設、2005 年文藻外国語学院大学通訳翻訳学科新設、2007 年高雄第一科技大学通訳翻訳研究科新設、2009 年文藻外国語学院大学多言語通訳翻訳研究科新設
- 7) 2002 年政治大学通訳翻訳研究センター新設、2008 年台湾科技大学通訳翻訳研究センター新設

添付資料: 第 15 回台湾通訳翻訳教育シンポジウム大会プログラム<sup>8)</sup>

09:00-09:30	受付	
09:30-09:35	開幕式 陳錦生(長栄大学学長) 李憲栄(台湾通訳翻訳学会理事長)	
09:35-10:25	基調講演: 通訳翻訳教育・研究におけるコーパスの応用 陳瑞清(米国モントレイ国際大学院通訳翻訳及び言語教育研究科教授、中国語学科長)	
10:25-10:40	ティータイム	
	第 1 セクション	第 4 セクション
10:40-11:00	① 蘭花舟から彤管へ: 中国古典時期女作家の英訳イメージ 劉素勳(台湾師範大学)	② 科学教科書の翻訳方法が読者の理解程度に与える影響 陳慶民(聖約翰科技大学) 廖柏森(台湾師範大学)
11:00-11:20	② Lefevere の翻訳理論から見た台湾文学の英訳 邱雅瑜(輔仁大学) 汝明麗(台湾師範大学)	③ 世界史の観点から見た翻訳事業の発展: 回顧と前向き 李恭蔚(長栄大学)
11:20-11:40	③ 翻訳ではどう真実を伝えるべきか—《含英吐華》の所見を例に 余淑慧(台湾師範大学)	④ 翻訳の文化旅行: クィア自伝小説『泥棒日記』を例に 史宗玲(高雄第一科技大学) 鄭雅丰(高雄第一科技大学)
11:40-12:00	④ 猪血糕どう訳すべきか? 文化詞の翻訳戦略兼論 陳采体(長栄大学)	⑤ 翻訳の新たな成り行き: 專業翻訳—Luca & Loraine Bariccih の Artistic Approach 芸術翻訳を例に 孫順智(長栄大学)
12:00-12:30	Q&A	
12:30-13:30	昼食	
	第 2 セクション	第 5 セクション
13:30-13:50	⑤ Designing Translation Curricula in the	⑥ 大学生中英翻訳における英語コロ

	Machine Translation Era (MTE): Challenges of a New Approach. Student Perspectives Riccardo Moratto (輔仁大学)	ケーション能力と誤用例に関する一考察 廖柏森(台湾師範大学)
13:50-14:10	⑥映像翻訳: 課題達成・問題解決法利用のコースデザイン 張裕敏(台湾師範大学)	⑰Communicative Language Teaching and Translations across Genres 邱東龍(長栄大学) 董大暉(長栄大学) 林達陽(長栄大学)
14:10-14:30	⑦大学中英通訳授業における構成主義学習と状況的学習の実践 汝明麗(台湾師範大学)	⑱Enhancing Linguistic Competence in Chinese-English Interpreting: A Corpus-assisted Approach 陳瑞清(Monterey Institute of International Studies)
14:30-14:50	⑧A model of learners' written peer response on translation 王慧娟(文藻外語学院)	⑲Woolf vs. Woolf: On Mrs. Dalloway and Its Four Translations in the Light of Modernist and Feminist Translation Theories 李延輝(台湾師範大学)
14:50-15:20	Q&A	Q&A
15:20-15:40	ティータイム	ティータイム
	第3セッション	院生フォーラム
15:40-16:00	⑨質量ともに重視する英中翻訳評価法: 四段階加権モデルの構築 温滢雅(虎尾科技大学)	⑳The Analysis of Idiom Translation in Chinese Translated Novel Narnia: "The Magician's Nephew" Shuming Chen(大葉大学) Hsin-yi Chan(大葉大学)
16:00-16:20	⑩台湾国家公園ウェブサイト翻訳に関する研究ー機能主義の立場から 許玫琪(高雄第一科技大学) 史宗玲(高雄第一科技大学)	(21)台南市における公共交通標識の英訳に関する一考察 陳怡蓉(長栄大学)
16:20-16:40	⑪Toward a New Approach to the Translation Error Analysis of Learners at Different Stages of Development and Its Pedagogical Implications: a Corpus-based Study 張裕敏(台湾師範大学)	(22)A Study looking into the use of Linear Translation and Translation in Reverse Order in case of Simultaneous Interpretation from Chinese to Japanese 丁紀祥(大阪大学)
16:40-17:10	Q&A	(23)翻訳授業の実践 曹雅容(台中県中港高中)

17:10-17:30	閉幕準備	Q&A
17:30	閉幕式 李憲栄(台湾通訳翻訳学会理事長)	

8)本大会のプログラムはもともと中国語で、報告者が自分で日本語に翻訳して、さらに手を入れ、画面配置などを修正・編集し、本添付資料のプログラムを作成した。